

佐倉高校におけるSGH研究開発事業5年間の取組について

校 長 谷口 哲也

佐倉高校の文部科学省指定スーパーグローバル研究開発事業（SGH）は、平成28年度の指定から今年度で5年目となり、最終年度を迎えることとなりました。これは、文部科学省がSGH事業を今年度で終了して、異なる事業を進めていることによります。本校としましては、SGH研究開発に一区切りをつけることになりました。最終年度は研究開発の集大成として、様々な取組を予定しておりましたが、昨年度末からの世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画していたドイツ、オランダ、英国等へ生徒が訪問しての国際交流事業を中止せざるを得ず、また、国内において予定していた様々な取組も実施することができず、大変残念な状況となってしまいました。しかし、ICTを活用してのWEB会議による国際的な交流、国内SGH校と連携しての生徒同士のディスカッション等、コロナ禍における新たな試みにチャレンジし、成果をあげて参りました。

振り返りますと、本事業は、全くの白紙状態から職員、生徒で試行錯誤を繰り返し、改善しながら進めてまいりました。その成果は、生徒による国際交流事業の取り組み、新学習指導要領に位置付けられた「総合的な探究の時間」における課題研究の取組の研究開発等、多岐に渡っております。これも運営指導協議会の皆様からの貴重な御指導御助言を基に、関係機関等の協力をいただきながら研究開発を進められた結果であり、感謝を申し上げます。この5年間のSGH研究開発の成果は、本校の血肉となり、引き続き改善しながら実施して参ります。ここに、5年間の成果の一部を列挙します。

- SGH研究開発事業と同時に、SSH研究開発事業第2期の指定を受けることができ、運営指導体制を刷新し、探究学習部を創設し校内体制を整備した。
- 普通科を含めた全校体制で探究学習の進化と深化を図ることができた。特に、「総合的な探究の時間」での課題研究を学年全体で実施できるようになった。
- ドイツ、オランダ、英国、シンガポール、オーストラリアへ生徒を派遣し、本校の特色ある教育活動としての国際交流事業を充実、発展させることができた。
- SGH、SSH研究開発事業を進めるなかで、校内のICT環境の整備を図ることができ、教員のスキル向上と共に、生徒が授業等において、BYOD環境下でICTを活用できる環境となった。WEB会議の実践例を積み重ねることができた。
- 理数科を主体として実施してきたSSH事業の内容を、普通科のSGH事業とも連携して実施した。

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、複雑な様々な課題への対応について、今まさにグローバルな視点から捉える必要があります。生徒は、SGH事業における探究学習や国際交流をとおして、問題意識を持って、様々な人と協働して学びあい、話し合いながら解決策を模索する実践を体験して参りました。これにより、これからの先の見えない時代において求められる、実社会において問題を見だし、知識・技能を活用して、他者と協働して探究できる能力の育成を図ることができたと考えております。

最後に、本事業を実施するにあたってご指導いただきました文部科学省、千葉県教育委員会、運営指導協議員の皆様、千葉大学、明治大学、東京外国語大学、東京大学、筑波大学の先生方をはじめ、多くの大学関係者や関係各位の皆様にご感謝申し上げます。引き続き、令和4年度からの新教育課程にも探究学習を位置づけ、国際交流事業にも取組み、SGH研究開発事業の成果をしっかり継承して参りますので、これからも御指導・御協力を賜りますようお願い申し上げます。